

## 自序

私は北京に幾十年順天時報に仕事をして居た。順天時報は支那の一部の人からは日本帝國主義の機關だと云ふので猛烈な排斥を受けた。爲に廢刊になつたのであるが、併し多數の市民は最後に至るまで愛讀してくれた。廢刊後三四箇月を経た今日でも尙順天時報が無くなつて不便だと云つてくれる支那の人が多數にある。順天時報の出來た頃の日支歐米各國間の相互關係及び各自國內の形勢と今日の其等とは非常な相違がある。全體の人類の思想の上にも大變化があるのだから順天時報の態度なり目的なりにも自然に大變化が無くてはならない。私共は時勢に應じて變化させて日本の爲にも支那の爲にも相當有益な機關にしたいといふ考を以て幾分づつは改良して行つたのであるが、決して充分では無かつた。故に支那の人にも日本の人にも不満があつた事に相違ない。實は今少し時日を借して欲しかつた。私は日本の爲に支那が良くなる事を望む。その爲に支那の改善に微力を盡し、日支兩國の新關係の成立に骨折りたいと云ふ精神であつた。而して順天時報廢刊の直後、從來書いた事を更に思ひ廻らしたり、支那の將來がどうなるだらうと考へたりしたのが此一篇を書き始めた動機になつた。

支那の人には國家觀念が無い。之れでは根本的にどうとも仕様がないと始めは考へた。支那の人々も新教育を受けた人々はさう考へたのでそれが新聞にも表はれ教育方針にもなつて國家主義も起り愛國運動も起つた。之れは支那人の自覺の端として結構な事と考へた。又支那人に宗族團結の念強く愛郷心が強いのだから、それが全支那的愛國心に成長しない筈がないと云ふ説もある。それにも私は敢て不同意ではない。併しながら此等の愛國心が偏狹な排他的の

ものであつて貰ひたくない。それは支那を亂し自ら燃まる途である。もつと明るい大きい愛國心であつて欲しいと考へた。之れが私の願望であるが、支那は元來さうである可きものではないかと考へるに至つた。宗族關係や郷里關係の様な排他的團結心はせいどくの所、全省か一二省を聯ねた所が行き止りで、それ以上の廣大な地域には支那の實情の上から見て及ぶ可きものでなからう。支那全土を打つて一丸と爲す様な西洋式國家主義は支那に行はる可きものはあるまいと考ふるに至つた。其の民族性を見れば必ずしもコセ／＼した西洋式の國家主義を必要とせず、支那に適當する特殊の國家(人群團體)があるべき筈、それによりて民族の獨立を保持し、幸福の増進を計り得ると考へた。それが此一篇の内容になつたのである。

此一篇を書く時、故孫逸仙氏と王鴻一氏との思想と人格とを常に心中に思ひ浮べて居た。孫氏の事は支那の革命建設全般に涉つて居るから當然常に心の中から離すわけにいかぬ。王氏は只今の北支那に於て最も重要な地位に居た。しかも餘り人に知られて居ないから殊に本文中に紹介の一文を挿入した。已に脱稿して出版に着手せんとするに當つて突然王氏の訃に接し感慨無量であつた。王氏は私の書くものについて常に正當の理解を持つてくれた。固より氏と私との間に思想上の多少の杆格はあるに相違ないが、大體に於て理解してくれた。東洋全體の爲に將來に於て提携して力を盡すべき諒解もあつた。二人の間には國家とか民族とかの障壁を超越した思想感情の交通があつた。此れを一般に日支兩國民族の關係に擴大すべく、吾々の使命は此れに外ならぬと考へた。私は支那の如何なる人に對しても之れと同様の態度感情を以て對したいのであるが、相手によつてはそれが出来ない。殊に自分の性質の關係上、いつも受身であるから、先方が正當に理解してくれなければ、自分から押賣りはしたくない。此意味に於て王氏は自分の知

己であつた。王氏は新政府の教育部長に擬せられて居たさうだが、氏は或はそれを受けなかつたかも知れない。一部の長官たるよりは全般に涉る政治の顧問として仕事をしたかつたかも知れない。それとも一方から見れば、先づ教育より力を盡すがよい。其の方が効果が多いと考へたかも知れない。それよりも王氏は邊疆に於ける大規模の開墾移民に志があつたからその方面に全力を盡したかも知れない。實際、部長と云ふ官職を眼中に置かずして、民族に對する正當なる教育方針を建て、其機關を造ると云ふ事及び開墾移民の事は、支那救國の現在の最大なる二大緊急事業である。支那は此二大事業に關して王氏の思想と人格とに須つ所大なるものがあつた筈である。王氏死すと雖も其同志の人はあるから、其志を繼ぐ人があるであらう。他の有力者と雖も、眞に救國を思ふならば、此二大事業に全力を盡すより外に途はないと考へて來るに相違ない。日本と支那との關係の如きは抑も末節である。支那に正當な教育が興り開墾移民の事業が進めば兩國の良好關係の如きは其副産物として自然に生まれるものと私は固く信じて居る。くれぐれも王氏の志を繼ぐ可き眞實眞摯な人物の出現せん事を切望して已まない。

此文の執筆中に「支那」と云ふ言葉についての問題が起つた。公文書の場合は別問題とする。普通の談話文章の中にでも「支那」の語を用ゐるのは僭學の意たとするのである。實際にさう考へて居る支那の人が多くあるので、態々人のいやがる事をする必要もないと一應は考へる。久しい以前から私共の考へて居た事であつたが、今度の南京政府の問題からして更に考へて見た。此一篇も日本の人の參考にもと思ひ支那の人にも読んで貰ひたいので、「支那」の文字をすべて削除しようかと考へて見たのだが、中國と書いても中華民國と書いても充分に意味を表はせない。歴史的又は地域的に總括するに不便である。それに吾々は「支那」と云ふ言語の中に如何にも同文同種であると云ふ親愛

の意味を見る。吾々は「支那」と云ふ言葉を使用する時に決して輕侮の意を持たず、寧ろ甚だ懐かしさを持つ。支那の人が「日本人」と言ふ時にも場合によつては親愛の意にもなつたり輕侮の意味になつたりする。此等は場合々々による。「支那」と云ふのを一概に侮蔑の意を含むと見るのは稍々偏執に陥つた感情であらうか。故に此一編の中には尙「支那」の文字を使用してをいた。此點支那の讀者の諒解を仰ぐ。

昭和五年七月三十一日北平寓居に於て炎熱の下蟬時雨を聞きつゝ

著 者 誌 す

# 文 國 支 那 の 建 設

## 目 次

一 日本は支那の安定を必要と爲す	一
二 支那民族の自覺	四
(一) 政治に無頓着な民衆	五
(二) 劣悪な知識階級	八
(三) 建設的新團結の要	一一
三 辛亥革命失敗の原因	一三
(一) 近代國家の制度の無考慮輸入	一三
(二) 國家の面積と支那の國土	一五
(三) 戰爭團體と支那民族の平和性	一七
(四) 國家の三要素は支那に發達しない	一九
四 國民革命の功罪	二一
(一) 孫逸仙氏の活眼	二一

(一) 共産黨と國民黨 ..... 二四

    (イ) 容共と排共 ..... 二四

    (ロ) 容共によ來する實害 ..... 二六

(二) 國民黨自體の過誤 ..... 三一

知難行易説—孫總理神格化—黨員と民衆との分離—革命人の怠慢—革命程序の無視—  
三民主義の緩急—打倒軍閥の不成功—民生主義の誤用

**五 打倒帝國主義の活動** ..... 四一

    (一) 帝國主義の來侵 ..... 四一

    (二) 帝國主義の緩和された原因 ..... 四三

    (三) 支那側の帝國主義對策の變遷 ..... 四四

    (四) 列國の對支態度の變遷 ..... 四六

    (五) 廢約達成の根本要件 ..... 四八

    (六) 諸外國及び日本に望む ..... 五〇

**六 固有政治理想の提唱者** ..... 五二

    (一) 紹介の理由 ..... 五二

    (二) 本來の面目を見る ..... 五三

(三) 國民黨改造説 ..... 五五

**七 近代國家主義の動搖** ..... 六〇

    (一) 行詰りの轉換期 ..... 六〇

    (二) 將來國家の基本思想 ..... 六二

**八 文國主義を支那に勸む** ..... 六四

    (一) 漢族文化の優勢と特質 ..... 六四

    (二) 治國平天下主義の實現 ..... 六五

    (三) 歐米國家の歸趨と合致す ..... 六八

    (四) 結論的文國と思索的文國 ..... 七〇

    (五) 孫逸仙氏の理想と文國 ..... 七一

**九 文國國家の標準と段階** ..... 七五

    (一) 共和制 ..... 七五

    (二) 民生主義 ..... 七六

    (三) 民權主義 ..... 七八

    (四) 民族主義 ..... 八〇

    (五) 革命の程序 ..... 八四

(六) 單位は縣の自治……………八五

十 日本と支那との關係……………八六

(一) 日本對支外交の歴史……………八七

    日本帝國主義及び支那の排日の由來—日清戰爭—拳匪事件—日露戰爭の結果—青島の  
    占領—後れ馳せの帝國主義

(二) 前には國防後には經濟……………九四

(三) 民族的競争と文化的聯合……………九七

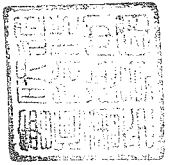
(四) 日本の理想亦支國主義にあるべし……………九八

十一 結    論……………九九

    支國の要點—支國と國民黨—支治は支弱にあらず—廢約に利あり—結局は自覺と氣誠

十二 餘    論……………一〇五

# 支 國 支 那 の 建 設



金 崎 賢

## 一 日本は支那の安定を必要と爲す

私は十年以上支那に居て、しかも支那の新聞に従事して居た關係上、どうしても支那の事が氣にかゝる。どうしたら今少し治まるだらうか。之れがいつも頭にこびりついて居る。吾々の十餘年間の支那生活は排日々々でいぢめられ通し。他の人々の様に、書畫骨董を集める餘裕もなく、麻雀、ゴルフに興ずる邊も無く、人が北京がよいと云ふ其のよい所を少しも享樂する事は出来なかつた。明けても暮れても排日反日、排斥劣貨、打倒日本を聞かされて、對抗策、緩和法、辯解、説明のみに慌しく過ぎ去つた。それでも支那の人を少しも憎いとは思はず、殊に支那と云ふ言葉には充分の親しみを持つて、政局が安定する様に、内亂が無くなる様に、國民生活に光りを見出す様に祈りながら、時には憎まれ口を叩いて、政府に政黨に個人に、各方面に對して忠告したり勸告したりした。其爲に政權黨權個人權に據つて私意を行はんとする一派、及び單純に煽動を受ける雷同的愛國者に憎まれて、或は帝國主義の手先と云はれ又は軍閥の支持者と罵られた。併しながら多數の善良な市民及び少數の眞面目な知識階級には理解された。殊に最近にな

つては私の注意した事、勸告した事を意見と爲す知識階級の人もあちらこちらに見える様になつたのは聊か愉快である。此傾向は天定まつて人に勝つと云つた様な事で支那が少しは治まりかけたのでないかとも思はれる。とは云ふものもまだ／＼心配に堪えない點がある。

元來支那では所謂國民革命が進んで南京中央政府が出来たので、國民も外國人も今度は少しは良くなるかと思つて居ると、良い所か、各方面の情況は益々悪くなつた。引續き／＼内亂起り遂に全國的の騷亂となり、人民は益々窮苦に陥つた。政府の遣り口を注視して幾分援助しようかといふ様な気分になつて居た外國も漸く夢想をつかして來た。此まゝで行くなら、益々悪くなるだらう。さうなつた上で、結局ほんたうの國民革命に行けばよいのだが、支那の國民には容易にそれは望まれさうにない。多數の人民には政治的興味なり能力なりが、甚だ缺乏して居るから、今の中に、知識あり、實力ある人達が奮發して眞の救國に向はねば實にメチャ／＼になるだらうと心配せられる。

支那の事よりも考へれば日本の方がかなり心配な事がある。支那の事なんか考へるのは餘計な事。他人の頭痛を痴氣に病むものだと云はれるかも知れないが、必ずしもさうであるまい。日本人は日本の事をもとより考へねばならないが、日本の爲に支那の事を考へねばならぬ必要がある。云ふまでもなく支那は日本と重要密接な關係がある。國防から見ても國民經濟から見ても文化關係から見ても、決して支那を閉却する事は出来ない。何と云つても支那が今少し安定して其物質的乃至精神的の生活を向上する様になつて貰はねば、日本の政治も經濟も文化も進む事が出来ないのである。支那が良くなる様に、祈る事働らく事は決して他人の頭痛を痴氣に病むわけではない。此事は少し考へれば誰にでも判る事ではあるが、それでも尙ハツキリと此事を頭に入れて居ない人もある。理論上からは承認しても、それ

程とも考へない人が多い。殊に之れを明言する必要があるわけである。

吾々の望む所は、支那民族の生活安定にある。生活には精神的物質的の兩面があるが雙方共に安定して欲しい。而して安定は停滯ではない。停滯すれば腐敗となり退化となる。安定の爲には斷えざる向上が必要である。安定すれば自然に向上する。不斷に向上するなら不斷に動いて居るので、安定でないといふ人があるかも知れないが、安定向上の文字に抱泥する必要はない。向上しつゝある所に安定がある。停滯は向下となつて不安を伴ふ。安定即向上、向上即安定である。吾々日本は支那民族の生活の安定を切望する。と云ふと之れに反對の人があるかも知れない。口先では支那民族の安定向上を希望するもよいが、衷心からさう考へてはいけぬ。口先ではさう云つても吐の底ではもつと亂れるがよいと考へて、寧ろ紊れさせる様に表面から撻擗してやるがよいのだと考へる人があるかも知れない。此種の考へ方では今の様な支那でさへ、排日だの不平等條約だのと云つて日本が手も足も出ないではないか。それが政局が安定し、經濟が進み、もつと強くなつて來たら、とてもなまらない。あんな大きな國土と、多くの國民を有する支那が強くなつては困る。それよりも亂るゝに任せ、或はもつと亂れさせてをけば、混亂に乗じて利權を得る事も出来る。品物の賣込も出来る。あわよくば、領土を獲得する事も出来る。これが日本の人口問題、食糧問題、國防問題を解決する途である。之れによつて日本民族の精神的物質的の生活向上を圖り日本民族の發展を策し得ると云ふ考へ方である。今は斯様な考へ方の日本人は餘り多くはあるまいけれども尙多少はないとも限らない。此考へ方は即ち帝國主義的であつて支那を不安定に導くもの、吾々の支那に對して望む所とは正反對である。日本人はすべて此考を捨てねば兩國の純眞な關係は成立しない。若し此考を懐く人があるならば、左様に考へない人達は之れを匡正する様に

努力するを要する。

支那人自身が、或種の野心家を除く外の大多數は其の安定を欲するのは云ふまでもない。吾々が敢て支那の爲にと云ふのでなく、日本自身の爲に必要と爲す所と完全に一致するのである。故に日本人の欲する所を支那人に勧め、支那人の爲さんと欲する所を日本人が助けて、共力して目的を達すべきである。私は此考を前提として此文を書く。結局に望む所は精神的及び物質的の向上による支那全民の進歩である。

如何にしたら安定が求められるか。細かい事は今日いくら考へても無駄。先づ根本問題を考へねばならぬ。根本問題となるといくら考へて見ても別に變つた智恵もない。矢張り月並ながら第一に國人の自覺を求めねばならぬ。自覺としては先づ以て之れまでの誤つた點を檢出し、深く反省して再び之れを繰返さない様に注意し、更に改めて考ふる所あるを要す。

## 二 支那民族の自覺

支那民族の自覺と云へば、言甚だ簡單であるが、かなり複雑な問題である。支那の事だから支那人の自覺に據らねば何事も出来ない事は云ふまでもない。而して現在に於て、甚だ自覺の足りないと思はれる所があるから、自然之れを論じて見たい。吾々は支那の一部の自覺を認める。それも追々と進みつゝある事も認める。併し其の未だ足りないと思ふ所あるを見て甚だ惜しまざるを得ないからである。最も望む所は支那全民の自覺にあるのだが、何しろ四億の人口中、三億は目に一丁字がないと云ふ。しかも残り一億にしても僅に一丁字を識るに過ぎない程度の者が大多數を

占むるのであるから全民自覺など到底望み得ない。勢ひ全民を知識階級、無知識階級の二つに分けて考へる。

### (一) 政治に無頓着な民衆

四億萬人中の大多數を占むる無知識階級は殆んど太古の民である。田を耕して食ひ井を掘つて飲む希力何ぞ我にあらんと云ふ様な人達で、爾來餘り進歩して居ない。さすがに長い間の生活だから個人としては悪心もあり競争心もあり口論もする。争闘もする。盜賊詐僞もするのだが、人類團體としては極めて平和の民である。而して平和的社會組織は發達して居る。但し政治的にも社會的にも權力者に對して抗争する氣分もない。因より之れは大體の話で、政治的社會的權力に對して抗争する分子もあつて、それが匪徒になつたり俠賊になつたりするが、それは全體から見れば極めて少數の例外である。又外來民族に對して團結して抗争する心持もない。それ程に外來民族と衝突しなかつたから、左様な抗争心が起らなかつたのである。土地が廣く物質豊富なせいであらう。但し之れも矢張り程度の問題で、西洋諸國の民族團體の抗争激烈であつたのに比較しての話である。之れが國家觀念の起らなかつた原因でもあり、政治の行はれ易かつた原因でもある。或は逆に眞の政治が發達しなかつた原因でもある。此人達の希望する所は只個人的本能を達し生活の安穩を得るだけにある。道義が現在の如き發達を示しそれが甚だ有力であるのも其原因は此處にあるかとも思はれる。大體此人達は政治に無頓着なのである。政治が全然支配者の手に在つて自分等には全然無關係のものと思つて居る。自分等は被支配者の地位にあると云ふ様な事を考へようとしめない。随つて支配者が誰であらうと構はない。苦しめられれば困るのだが、それを改めさせようとか、その支配の手から脱しようとも考へない。苦しいのは政治のせいだとすらも考へないのが多い程である。都會人や稍々知識ある者はそれに氣がついても激注<sup>ガツキ</sup>す

で片づけて置く。即ち政治について無自覺である。すべて未開半開の人類は大體にさうであらうけれども、支那に早くから文明が相當の程度に進んで、長年月の間立派な社會を作つて居る人類でありながら、此れ程に政治に無頓着な人間と云ふ者は他に決して類例がない。或は人有りて支那人は決して政治に無頓着ではない。大いに騒いで居るではないかと云ふかも知れないが、騒いで居るのは極めて少數である。新聞雑誌パンフレット何黨何派の聲明傳單などを見て、それが支那の輿論だとか、政治自覺の表現だとか見るのは聊か買被りである。

多數が斯くの如く無頓着であるからして、政治の局に當る者がどんな事をして反抗しない。新に租税を作つても反抗しない。近頃の様に内亂の爲にあらゆる新税を設けた外に租税を四年も五年も前納せしめて、それで黙從して居るといふ様な事は他に例はない。如何なる條約を結んでも敢て喜びもしなければ敢て反抗もしない。苦しい時は苦しいと思ふだらうし、いやな時はいやとも思ふだらうが、之れを口や行に表はさない程に従順な人民である。無政府に似た様な警察の下でも、盜賊や暴徒が割合に少ない。權力者が贅澤する爲に浪費する酒肉、服玉、外國から買入れる物資、權力を爭奪する爲に敵味方の買入る、軍器彈藥の費用、彼等が失脚して後の贅澤生活を保障する爲に外國銀行に預け入る、金錢、其等の富は皆此等和平的無自覺の多數民衆の手によつて産出さるゝものである。土地が廣く人數が多く、此多數人が黙々として働いて搾取に任せるのである。滑智狡才の徒が之れをよい事にしていくらでも搾取する。搾取の爲に競争する。昔時の帝王貴族が贅澤を盡したは其の爲で、お蔭で美術建築の發達があつた。今日内亂が絶えないのも、此等の和平多數人がいくらでも其費用を提供するからである。

支那の眞の政治を考へる人は此等多數の民衆ある事を忘れてはいけない。之れを搾取の相手と爲さず、此等の人達

の意思を尊重し幸福を將來する様に考へねば眞政治は出来ない。吾々外國人が支那を見るとか支那人を相手とすると云ふ場合にも此等最大多數の民衆を常に眼底に置かねばならぬ。多くの場合には、一個二個の人物を、一黨一派の團體を直接の相手にしたり、或は稍々多數の表面に立つて口を利く分子を觀照の相手としなければならないのは自然の勢ではあるけれどもそれを本統の支那人だと考へて、其奥に多數の本統の支那人がある事を忘れる所から種々の錯誤が起る。無頓着であつても此等多數の人が支那の本質である。支那の富の生産者は此人達である。多數の消費者も此人達である。政治經濟法制の支那の特性は此種の無頓着な人達の特質から由來するものである。支配者は必ず被支配者の影響を受ける。被支配者の意思が働く時は此事は當然だが、無頓着であつても影響を受ける。支配者にも所謂知識階級を眼中に置かねばならぬ事は勿論だが、其奥に居る又は下積になつて居る多數人、即ち民衆の特質を重要視し、殊に此の支配階級と被支配階級との微妙な關係を洞察する事が最も必要である。

多數人民が斯くの如く無頓着であるから、若し當事者に適當な人があつて、適當な政治を行ふならば、善政は益々善政を生み、彼等の知識も生産力も消費力も増進し政治の安定も明し得るわけである。此れが支那に聖賢の道があり哲人政治が要求せらるゝわけであるが、多數が之れ程無頓着では哲人政治も容易には起り得ない。併しながら此等の人民がいつまでも無自覺のまゝで停滯して居ては困る。結局は此多數人が政治自覺を持つ様にならねば眞正政治の果實は得られないのだけれども、それは容易な事ではないから、差當つては、知識階級者中の自覺者があつて、此等民衆の爲に、其特質に適當する政治を發見して、其政治自覺を調育せねばならぬ。流石に孫逸仙氏は此點に考へ及んで革命程序の中に訓政期を豫定して居る。訓政期は眞の民衆政治に至るまでの道程である。教育と訓練により又は自



然に發達して來る此分子の生産力消費力乃至文化力が、將來の支那の安定と發達とに至大の關係を有するのであるから、外國人としても此分子の狀態には大いに注意せねばならない。外國人中、支那に最も深い關係のある日本人は殊に深い注意を以て此種の支那人を直接又は間接に助成すべき事を固く覺悟せねばならぬ。吾等の日支親善、共存共榮の相手、我等の朋友は結局此分子である事を知らねばならぬ。從來の日貨排斥や反日風潮の主動者も雷同者も決して此分子ではなかつた事をも併せて知つてをいてよい。

## (二) 劣惡な知識階級

民衆自覺の訓育の爲に働く者は之れを知識階級の中に求めねばならぬ。知識階級と云へば先づ軍人政治家、官吏、學者、教員、學生、近代的實業家等を擧げ得る。然るに此の知識階級なる者の中には甚だ劣惡な分子が多い。多數の民衆が政治に無頓着で、自己の地位にも無自覺であるのをよい事にして、此中の狡猾の徒が支配權を握り勝手な事をする。此れが即ち近來軍閥官僚、投機的軍人、政客、貪官汚吏、土豪劣紳、學匪、商匪、腐敗商人等の名によつて指摘される分子である。其頭抜けたのが英雄となり大政治家となる。此分子が互に争ひながらも一團を作り支配階級となる。此れが必然的に權勢争奪の勢を作り、敵味方分かれて戰爭を始め、更に味方同士で競争する。此れが不安定の大なる原因である。而して愛國運動だとか輿論だとか云ふのも、多くは此連中の方便として作爲するものが多い。外國人には此點に見分けがつかずして、之れを以て眞の愛國運動だとか國民の聲だとか誤認する場合が多い。外國の對支政策の誤りも時に屢々此點から出て來る。此連中は口では或は革命を説き、或は革新を論じ、國の爲、人の爲に働くのだと云ふ。然れども其心事、其行跡は正反對で、全然權勢利慾に捉はれて居る者が多い。惡意の知識階級であ

る。元來此人達が全國の權力をすべて握つて居るのだから、此中の某派と某派とが争つて何れが勝つても、此派以外の善良な多數民衆の爲には何の利益にもならぬ。彼等は勝つて權力を握つても、誠心を以て國の爲に、民衆の爲になる政治を行つて、新良國を設定しようと思ふ理想がない。斯かる理想で團結したのでないから、勝つても勝つた方の中で又分裂して相争ふ。いつまでたつても安定の途を見出されない。私は曾て此現象を循環鬭争と評したが、支那でも今日此語を用ゐる人がある。私は曾て次の様な事も説いて見た事がある。國民革命なるものは無權力者が權力者を倒して之れに代る事である。權力者同士が争つて居る間はどちらが勝つても、無權力者が權力を得る途は無い。それでは革命にならない。故に權力者が無茶苦茶に争闘した揚句、其中最強力者が完全に他の鬭力を壓伏する。國內で反抗する勢力が無くなつてから、それが圖に乗つて外國と事を構へ、外國の強大な勢力の爲に一網打盡的に打破される。一つに纏めて一舉に亡ぼすと云ふ天の配劑である。此れによつて始めて國內の無權者が擡頭の餘地を發見し國民革命が此處に始めて成就するのではないか。佛獨露奧多く此の通りになつて居るといふのである。支那でも或はさう云ふ様になるかも知れず、さうならねば收まりがつかないのかも知れないが、何しろ支那が大きいだけに、さうなるものにも容易でない。さうなるまでの混亂の爲には内外人が多大非常の犠牲を拂はねばならないから左様な所まで立到らせたくない。

軍閥官僚を以て名づけられる知識階級中の劣惡分子を驅除せねば、支那の安定は謀られない事は内外の均しく認むる所。早くから明白な事であるが、國民黨になつて最も力強く之れを唱道した。打倒軍閥の標語は其威勢頗る強く全國を風靡した。打倒軍閥の中には打倒官僚も含まれて居る。官僚は現在官吏たるもの又は過去未來の官吏たる可きも

便利である。日本が國家主義の建設に成功したのは之れが甚大の原因である。支那は全然之れに反した條件を持つて居る。土地が廣くて人口が多い近代國家の發達は全國民の意思と力量を集中せしむる事によつて到達したのだが、此の意力の集中は交通の便、印刷の發達、司法行政の周到、教育の普及、言論の自由等から來るもので全民の直接又は間接の参政權によつて達成せられる。此参政權の制度は根本的に必要なものであるが現在の支那では如何なる組織法を採つても正當な國家を造出する事は困難な實情にある。其他の近代國家形成に必要な法制及び前に述べた様な状況は國土の狹小、人口の少數(稀薄ではない)と云ふ條件の下に考案されたわけではないが、自然現象がさうであるから、自然にそれが條件となつて發達したものである。故に西洋諸國の學者も政治家も左様な事には別に氣がつかない。随つて日本人や支那人が之れを學び觀察するに當つても氣がつかない。西洋人が氣をつけてくれなければこちらでも氣がつかぬ。學說や教科書に書いてない事は一向無頓着なのである。支那の改革家は近代國家に關して矢張り此點に無頓着であつた。之れが翻譯者の悲哀と云ふものか。支那には西洋諸國とは正反對の條件が數々あるのだから、自ら國家を作らんとし範を諸國に取らんとするも、到底彼等の法制を嚙呑には出來ないのは當然であると知らねばならぬ。

北米合衆國は大國である事支那に似て居る。故に歐洲のまゝの制度では近代國家を作り得ない。併し白人が作った國であるから、白人の國家主義に多少の變更を加へて自己に適當なものを作り上げた。土地が廣く地の利も占めて居るので大いに發達した。支那は米國とは人種も異り祖先が經過した歴史も異り地理關係も異つて居るから、只大きさが似て居るといふだけで、米國を眞似るわけにはいかない。露國も大國たる事は支那と同じだが、矢張り自己に適す

る方法を探つて進んで居る。之れも因より支那とは異なる條件が多いから支那がそれを眞似るわけにはいかない。此等の點から見て支那はどうしても支那自身に適する方法を發見せねばならぬ。此の支那に適する方法を考へないで他國の眞似をしようとしたのが誤りであつた。誤つた事に骨折つたから効果が擧らないのはまだよとして、其の爲に混亂を増し安定を害するに至つた。

### (三) 戦争團體と支那民族の平和性

性質上近代國家が支那に適當しないと云ふのは民衆の本質に關する事である。何故に適しないかを見る爲に先づ考ふべきは近代國家とは如何なるものであるかである。近代國家は元來歐洲の人口稠密な小國間に必然的に發生したもので(大國と云つても支那に比すれば小國である)或地域を區劃して周圍に墻壁を築き、人と財物との出入に制限を加へて自ら守り他を防ぐを目的となす團體である。それが追々と發達したのであるから、畢竟人類の戦争團體である。連りに攻防を重ねる中に益々發達し來り、其必要からして内部團結の必要を感じ、對内對外の主權觀念が發達し學說ともなつて國家學、政治學、國際法を生み來つた。互同志の闘争では間に合はなくなつて海外發展となり海賊主義となり米大陸發見となり植民地政策となり帝國主義となつた。帝國主義は無住民の地から野蠻人の住地に及んで其住民を野蠻視し、更に其爪牙を亞細亞の文明人の住地にまで及ぼした。白人は黄色人を指して野蠻人視するけれども吾々の考ふる所では然らず、只文明の性質が異なるのである。東洋には白人文明とは異なる文明が發達したのであつて、決して未開野蠻と見るべきではない。さう見るのは白人の自惚れであり僞見であると、吾々は考へて居る。而して帝國主義は一般東洋人を侮蔑してそれをも人類視せず奴隷視して亞細亞を彼等の植民地となさんとした。而して其一部分

にも手をひろげて遂に日本と支那とを目指して來た。別方面には帝國主義の變形として資本主義が発達し、兩々相扶けて益々發達して東洋に迫つた。而して他の一方には共產主義が起つたのだが、之れは資本主義と帝國主義とを併せて此兩者に反抗して起り來つたものである。併しながら矢張り白人文明から生まれたもので、資本主義帝國主義の一變形であるとする可きである。共產主義と國家主義、帝國主義、資本主義とは非常に異なる様ではあるが、根本が同一である。故に帝國主義、資本主義の無い處には共產主義は行はれない。近代國家なるものは元來、上述の如き事情から發生し上述の如き發達を遂げ來つたもので、どこまでも戰争的で鬪争的である。近代國家なるものを盲目的に無瑕の珍寶である如く拜戴する前に先づ以上の如き檢討を加へてをく事を要する。

人種的であるか地理的原因であるかは問ふを要しないが支那では歴史が異なる。各人の邸宅に墻壁を作つて賊を防ぐ事はある。それが大きくなつて都邑の周圍に城壁を作るが之れも盜を防ぐにある。敵を防ぐ目的があるにしても領主の家を防ぐのであつて市民自らが守るものではない。鄉村にあつて郷民共同の防禦を目的と爲すものもあるが結局盜を防ぐのが目的である。萬里の長城の様な敵の侵入を防ぐのを目的と爲すものがあるけれども廣漠たる範圍に涉り、兩民族の主力は遠方に在る。城壁一重を界線として敵味方が常に揉み合つて居るのでない。故に此廣い土地でありながら、國家的に分裂しなかつたのである。是れ畢竟、左様な競争の必要がなかつたものであらう。故に民族に鬪争性が無く、極めて平和的である。他民族の土地を侵略しようと云ふ者が少しも起らない。お互にさうであるから侵略しようにも相手がないのである。

斯様な歴史的事實からして支那には國家觀念が發達しなかつた。國家形成に必要な要素の觀念も發達して居ない。

日本支那の古來の交際ぶりを見ても明白なる通り決して雙方が互に相手を攻略せんとした事は無い。僅の例外があるに過ぎないのみで常に平和な交際を續けて居た。東洋に國する民族は日支兩國に限らずすべて大體に於て平和的であつた。此點は非常に西洋諸國とは趣を異にする。兎も角支那民族には鬪争の必要がなかつたので人類は戰爭團體を形成して居ない。時に戰爭はあつても民族的戰爭でもなく民衆的戰爭でもない。然らば統一が無いかと云ふにさうではなく、廣い土地でありながら文化的には統一され、文化團體として充分に發達して居る。民族は分裂して相闘ふ必要もなかつたし、一國となつて他民族と争ふ必要もなかつたので、平和的であり互助的である。昔から民衆が團結して王侯貴族に反抗しようと思はず、外國人を排斥しようとしなかつた。故に民族主權の觀念などは出来なかつたのである。斯くの如き民衆であるからして鬪争本位から割り出された近代國家なるもの、諸制度はシツクリと身に合はぬ。だからいろいろと近代國家に倣つた法律を作つて見てもそれが人民の物にはならない。軍隊を作つても多數人民に鬪争團體たるの自覺なく軍隊を以て自分の物だと感じないなら其軍隊は少數軍人の私有物になつてしまふ。排日運動などやつて日本に對する鬪争を挑みかけても民衆は共鳴しない。日清戰爭にしる近頃の對露戰爭にしる（宣戰の布告はしなかつたが）一般人民は對岸の火災程にも思はない。畢竟鬪争團體としての自覺がないからである。

#### (四) 國家の三要素は支那に發達しない

近代國家の理論や制度を支那に入れて適當しない今一つの原因は國家要素から來る。近代國家は特定地域、特定民族、主權の三要素より成ると云ふのが國家學の定説である。現在支那に就いて之れを檢する。先づ地域と特定民族とに就いて見るに甚だ明確を缺く點がある。昔時の支那が天下と云つて、皇帝の威徳の及ぶ範圍を以て其版圖と解せら

れ、其地域に於て常に大なる變動が行はれたる如く、今日の支那の領土は不確實である。何處までが中華民国であるかと云ふ事が決してハッキリしない。随つてどの民族が支那人であるかも明白でない。どこが支那と外國との界が明瞭に分つて居る所は海岸線か朝鮮との界のみで（それにも間島の如き曖昧な所がある）陸続きの所ではどこにも境界がない。支那の中だと思つて居る所にいつの間にか他國の保護國が出来たり獨立の勞農共和國が出来たりして居る。其邊の住民は支那人か他國人か解らないわけである。斯様に、境界と住民とが分明でなくては國家觀念が明瞭ならざるも亦自然の成行である。日本でも琉球を領土と定めるとか、千島と樺太とを交換するとかして國境を明定する事が近代國家を作る爲には必要な事であつた。之れによつて日本國家の觀念が國民の心の中にも明白になり、國家理論をあてはめ、國家制度を行ふに都合よくなる。隨つて外國からも認められる事になつたのを参照す可きである。

次に主權に就いて見る。今日の近代國家の主權なるものは民族主權である。主權も境界と同じく民族が自己の意思によつて創造するものである。他民族に對して自ら守る爲の必要に應じて一致團結する。其團結が國家で、團結力の中心が主權である。之れが對外主權となる。外に對する爲にも内を固むるを要し、人民各自の幸福の爲にも内を修むるを要するので、其の内を治むる力の中心が統治權となる。統治權は即ち對内主權に外ならず、對外對内の主權は自然に合一せられて之れを主權と云ふ。故に主權なるものは他の團體と争ふ時でなければ其觀念は發達しない。假令君主國であつても君主が國家を私有して居ると考へられる間は主權は發生しない。國民が君主の下に又は君主の周圍に居て一致團結して外に當るといふ考が發達するに隨つて主權觀念がハッキリして來る。西洋諸國では君主國でも民主國でも國家理論は同じ事であつて、而して國民なるものが自ら一致團結して他の國民と競争すると云ふ考が強くなる

に隨つて特定の民族が特定の領土に住んで絶對主權を有すと云ふ觀念が強くなり、隨つて國家觀念が強くなつて來た。故に君權の強い國での他國との競争の必要上、主權觀念を民心に扶植し發達させる事に骨折つて居る。

支那民族は西洋の各民族の如くに團結して他民族と争ふ必要を感じなかつた。それ故に民族の對外主權は自らの心の中に發生しない。政治的權力を有する者もそれ程の必要を感じなかつたから隨つて民族の團結心を養成する事にも努力しなかつた。之れが今日、支那民族は散沙の如しと云はれる所以であつて、對外主權の發達しなかつた原因である。對外主權觀念が發達しないから、隨つて統治權も發達しない。人民自身が自分の統治權を認めないのみならず、君主自身の方面に於ても統治權觀念は發達して居ない。

すべて斯くの如く、近代國家としての要素を具備して居ないのであるから、隨つて國家の必要に應じて發達した法規や制度が支那に其まゝ移入し得ないのは推測し得る所である。異なる條件の裡に育成された制度が適合しないのは當然であり、適當しないものを入るれば害を生ずるに至る事は推測し得る。故に之れを入れんとするには適當な選擇と變更とを要し、又之れに適すべく當方の條件に變更整理を加へて豫めの準備を調べて置く必要がある。

## 四 國民革命の功罪

### (一) 孫逸仙氏の活眼

以上によつて支那が共和制の建設に失敗したのは適合しない近代國家の理論及び制度を其儘移入せんとしたからだと言つた。其他に原因もあるたろうが、適合しないと云ふ事は間違ひのない事である。然らば問題は共和制がいけな

打撃を興へたからであつた。而して日本が白人文化に参加し得ると思はれたからであつた。現在は當時とは事情異り白人間に白人至上の信念が動搖して居るから武力其他の文化力によつて其反省を求むる必要はない。日本が主として其役割を勤めた。又白人文化至上の信念も動搖して居るから、白人文化に加入しないからとて輕侮は受けない。此際であるから東洋文化の善所を高揚し、其上に白人文化の當方に適當な部分を參酌採用するならば、彼等は必ず之れを承認して帝國主義を取津すであらう。故に不平等條約の撤廢は當方の文化の程度に正比例す可きものである。

他方から考へて、内政が充分でなければ不平等條約を撤去しても其利は得られずして却つて害になる。例へば關稅自主の如きも之れを實行して稅率を高くしても内政が修まらねば、却つてそれが爲に爭奪の内亂を激しくしないであらうか。濫費が多くならぬだらうか。税關の管理權を回收してそれが外人の手から離れると尙更爭奪濫費が多くなつて却つて國民經濟に害を興へないであらうか。領事裁判權の廢止でも、内政が修まらねば内外人の交通を阻害して矢張り國民經濟に累を及ばさないであらうか。内河及び沿岸航行權にしても、それを廢して支那の經濟に利を受くる爲には内政の修明を前提と爲す。それでなければ却つて害があるのでないか。すべて此等の實利は内政修明の程度に正比例す可きものである。故に内政の改革に努力してそれと相應して外交を進めて行けば格別の骨折りなくして成功し得可く、成功しただけは實際上にそれだけの利益を受け得る。

如何に考へて見ても、必要なのは自覺と熱誠である。自覺は失覺者の先導に俟たねばならない。故に今の軍人政客の中に自覺と熱誠とを以て奮起する人が無ければ、如何なる妙案を説くもすべて畫餅に屬す。革命家が民衆の力を用ゐると云ふも、今の民衆には左様な資格はない。之れを用ゐれば必ず匪徒になる。故に之れを教育してかゝらねばな

らぬのだが一方に於て知識階級の自覺熱誠を促がさねばならぬ。故に只今のところは先覺革命家が政權を得たら、民衆の性情に従ふ政治を採つて漸次に之れを教養して行くより外に途がない。吾々の考も畫餅であるかも知れないが、是れ以上は考へ様もない。只々吾々の要望する様な人物が奇蹟的に出現せん事を切望するのみ。而して其等の國士の爲に吾々の言説が一片他山の石たるを望むのみである。

## 十二 餘 論

私の此説には反對論ある事を豫想し得る。試みにそれを列擧すれば左の如し。

### 一 外國人が支那の事を論ずるに及ばぬと云ふ説

本文にも述べた通り日本人としては支那の事を考へる必要がある。自分の爲に之れを考へるのが、之れを以て支那の人に忠告しても敢て悪い事でもあるまい。

### 二 外國人には判らないと云ふ説

判らない事もあるだらうが、判る事もあるだらう。私の説いて居る様な事を支那でも説いて居る人があるから、外國人だから敢て見當違ひの事ばかりを云つて居るといふわけでもあるまい。

### 三 固有の政治理想でなくはいけないと云ふ説に對する反對

固有のものはいけぬから外國から採るがよい。外國のものでも移植されない事もないと云ふのであらう。併し外國のものを今まで採つて失敗したのであるから、固有のものに歸つたらよからう。而して固有のものがよくなかつた

原因を調べてそれを外國のもので補ふがよい。而して補ふ爲に外國のものを採るに當つても、以前に採つて失敗したものについては慎重に考量を加へて過を再びせざるがよいと云ふのが私の説である。

#### 四 支那に國家觀念がないと云ふ説に對する反對

支那に國家觀念がないと云ふと恐らく文字ある者は多く聞くを好まないであらう。併し國家と云ふは近代國家の事である。近代國家は戦争を目的と爲す團體である。斯くの如き國家觀念を作るべき要件が支那に備はらなかつたと云ふ私の考へ方に注意して貰ひたい。之れによつて私は支那を侮蔑するのではなく、又國家と云ふものを否認するのでもない。支那は別の意味の國家を作るがよいと云ふのである。即ち私は戦争を目的とする國家は舊國家であるとなし、此の國家主義は行語りであると爲し、新國家が生まれんとしつゝあると云ふのである。其新國家は文化的經濟團體であると爲し、過渡期として經濟的軍國團體が出来ると爲し、支那は文化的經濟國を作るを目的と爲すがよいと云ふのである。枝葉の事は別として此大體説について批評を望む。

#### 六、新國家主義説に對する反對

之れは舊國家主義を捨てるは亡國になると云ふのであらう。私は漢民族の文化統一力を自信するによつて文化國を作つても亡國にはならない、却つて發達すると云ふのである。古來存せざる民衆の理解せざる舊國家を作る事は却つて國內紛亂の素となり、對外的にも舊式愛國心を鼓吹する事になつて外交の圓滿を缺き、世界の新潮流に遅れる虞れがある。ナショナリズムよりインターナショナリズムに轉向しつゝある世界の犬勢を見て、支那が固有の民族精神によつてインターナショナリズムに一步を先んずるがよいと云ふのである。反對説は意見の相違であるから論究するを

要す。

#### 七 國爭主義否認に對する反對

帝國主義に對しては國爭より外に免るゝ途はない。階級競争は國より外に解決の途がないと云ふのであらう。私は帝國主義に對して争ふのは必要だが腕力を以て争ふには及ばないと云ふのである。統一したる文化力を以て争ひ得ると云ふのである。正理を以て争ふ場合には非法的暴力を用ゐずとも合法的文化力を以て争ひ得ると云ふのである。卑近な例で云へば示威運動を爲すにしても秩序整然たる全民的示威運動によつて充分に其効果を期待し得ると考へるのである。其方が效力が多いと考へる。暴力を露出する示威運動は文化力の低級を示すもので、却つて他の侮りを増す。況んや金錢や脅迫を以て人數を狩り集めた示威運動の如きは、帝國主義が強い時は武力を以て之れを壓迫する事が出来る。秩序整然たる全民的示威運動ならば如何なる帝國主義も之れを壓迫する事は出来ない。之れ支那の文化力が四億人を統一して居る強味である。弱國に外交無しと云ふが支那は弱國ではない。其文化統一力の強い事を自信すべきである。以上の私の説を玩味して然る後の反對説ならば即ち意見の相違である。

階級國爭に於ても同様で、支那に於ては國爭する程に階級の區別もなく、一般に階級的意識も無く、積存する各階級間に國爭心理もない。此處に國爭心を挑發するのは社會を混亂に導くものである。故に將來社會階級を發生しない様な豫防的職業を採用して全民政治を以て目的と爲すがよいと云ふのである。之れにも反對する人があるならば意見の相違である。意見の相違は多數の支那人が何れを好むかによつて決定せられるものである。

#### 八 理想に過ぎないとの説

理想であるかも知れないが、政治はすべて理想を目的と爲すべきものである。そう云へば立派な近代國家主義の國家に仕立て上げようと云ふのも理想である。只どちらが人民の幸福であるかと云ふのが問題である。私は鬭争的制度を作る事は勞多くして効少しと見る。其れだけの力を和平的政治の建設に用ゐる時は勞少くして効多しと見るのである。民族性、民族數、地理的狀況、世界現勢等より綜合的に觀察して此斷案を下すのである。(完)

昭和五年十二月五日印刷  
 昭和五年十二月十日發行

文國支那の建設

定價金五拾錢

不許  
 複製

著者  
 發行人  
 印刷人  
 印刷所  
 發行所

岐阜縣大垣市南寺内通百九十五番地

金 崎 賢

大連市紀伊町九十一番地

石 田 貞 藏

大連市東公園町三十一番地

吾 妻 力 松

大連市東公園町三十一番地

滿洲日報社印刷所

大連市紀伊町九十一番地

法人 中日文化協會

振替貯金口座大連二八五〇番